

MONSANTO



INFORMATION

日本モンサントからのインフォメーション

理系学生が「遺伝子組換え技術・作物」を
動画でわかりやすく伝えるコンテストで
ラップで伝える千葉大学の動画が優秀作品に決定
～堀江貴文氏ら専門家審査員および一般審査員の投票で決定～

日本モンサント株式会社（本社：東京都中央区、取締役社長：中井 秀一）は、科学を分かりやすく伝えることを目的とする FOODS NEXT 学生動画コンテスト「理系学生がデジタル動画でサイエンス・コミュニケーションに挑戦！」の審査会を9月20日（水）に実施いたしました。初回である今回のテーマは、「植物バイオテクノロジー（遺伝子組換え技術・作物）」でした。

一般審査員30名によるインターネット上での投票および審査会での専門家の審査員6名による投票で、最も優秀な作品に選ばれたのは、7点満点で5点を獲得した千葉大学「サウザンド・リーフズ（Thousand Leaves）」の作品でした。



(左から)

堀江貴文氏

千葉大学「サウザンド・リーフズ (Thousand Leaves)」

千葉大学 園芸学部 片山直紀 (かたやま なおき) さん

千葉大学 園芸学部 板谷かえで (いたや かえで) さん

千葉大学 理学部 藤田優輝 (ふじた ゆうき) さん

千葉大学「サウザンド・リーフズ (Thousand Leaves)」は、モンサントのロゴマークの「つる (VINE)」にちなんでつけられた「GRAND VINE AWARD」を受賞しました。トロフィーが審査員の SNS media & consulting 株式会社 ファウンダー 堀江 貴文氏より贈呈され、賞状が国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 感染症対策専門職 堀成美 氏より贈呈されました。筑波大学「バイオ e カフェ」、筑波大学「育種研」の 2 チームは「PREMIER VINE AWARD」を受賞しました。

千葉大学「サウザンド・リーフズ (Thousand Leaves)」の動画は、「遺伝子組換え技術・作物」のメッセージをラップに乗せて伝える内容で、審査員の堀江貴文氏からは「遺伝子組換え技術・作物に対してネガティブな意見を持つ人に安全性を論理で訴えても伝わりにくい。ラップで伝えるという手法は一つの正解」とコメントがありました。

日本モンサント株式会社 取締役社長 中井 秀一は、「コンテストの初回から、三者三様の多様性のある動画作品が集まったことが驚きでした。遺伝子組換え技術・作物のサイエンス・コミュニケーションでは、いかに論理をわかりやすく伝えることができるかということが常に課題。今後も社内で議論するに留まらず、今回のコンテストのように外部の多様な人々から協力を得られるよう取り組んで行きいと思います」と述べました。

コンテスト参加 3 作品は、以下からご覧いただけます。

<https://goo.gl/jcyn6Y>

日本モンサントは、農業分野での科学技術を製品とする企業として科学技術の理解の促進、科学と社会をつなぐサイエンス・コミュニケーションおよび、それを担う学生の人材育成を支援したいと考えております。その活動の一環として、今回の動画を制作するコンテストを実施いたしました。今後もこうしたコンテストを継続的に実施していく方針です。



【参加学生】

エントリーNo.1 筑波大学「バイオ e カフェ」

筑波大学 生命環境学群・生物学類 杉原 翔吉（すぎはら しょうきち）さん
 筑波大学 生命環境学群・生物学類 澁谷 美乃里（しぶや みのり）さん
 筑波大学 生命環境学群・生物学類 桑原 舞衣（くわばら まい）さん

エントリーNo.2 千葉大学「サウザンド・リーヴズ (Thousand Leaves)」

千葉大学 園芸学部 片山直紀（かたやま なおき）さん
 千葉大学 理学部 藤田優輝（ふじた ゆうき）さん
 千葉大学 園芸学部 板谷かえで（いたや かえで）さん

エントリーNo.3 筑波大学「育種研」

筑波大学 生命環境科学研究科生物資源科学専攻 柳 江莉那（やなぎ えりな）さん
 筑波大学 生命環境科学研究科生物資源科学専攻 松尾 宏樹（まつお ひろき）さん
 筑波大学 生命環境科学研究科生物資源科学専攻 向井 仁美（むかい ひとみ）さん

【審査員】

堀江 貴文（ほりえ たかふみ）氏 SNS media & consulting 株式会社 ファウンダー
 堀 成美（ほり なるみ）氏 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 感染症対策専門職
 佐々 義子（さっさ よしこ）氏 特定非営利活動法人 くらしとバイオプラザ21 常務理事
 笹川 由紀（ささかわ ゆき）氏 特定非営利活動法人 くらしとバイオプラザ21 主席研究員
 今井 康史（いまい やすふみ）氏 バイテック情報普及会 事務局長

中井 秀一（なかい しゅういち） 日本モンサント株式会社 取締役社長

「FOODS NEXT」について

未来の「食」の課題と課題解決について考える日本モンサントのミレニアル世代向けのコンテンツおよび様々なコミュニケーション活動につけられた名称

ウェブコンテンツ「モンサント・ジャーナル」：<https://www.monsantojournal.jp/>に「FOODS NEXT」コーナーを設置

モンサント・カンパニーについて

モンサント・カンパニーは、人口が増え続ける世界の人々に必要な食料を供給するために役立つ広範囲なソリューションを提供することに取り組んでいます。当社は、果物や野菜からトウモロコシ、ダイズやワタといった主要穀物まで、農業生産者が十分な量の栄養のある食料を生産するのに役立つ様々な種子を生産しています。当社は、農業生産者が、天然資源を保全し、農業を改善するためのデータを用い、水や他の重要な資源をより効率的に使用し、そして作物を害虫や病気から守るために役立つ持続可能な農業ソリューションを提供するため尽力しています。プログラムやパートナーシップを通じ、当社は、農業生産者、研究者、非営利団体、大学など、世界的な課題に取り組む人々と協力し合っています。モンサント・カンパニーや当社の取り組み、および問題解決のため献身的に取り組んでいる 20,000 人を超える従業員についての詳細は、discover.monsanto.com および monsanto.com をご覧ください。ツイッターの www.twitter.com/MonsantoCo やブログの www.monsantoblog.com の Beyond the Rows®、或いは、当社の News Release RSS Feed を購読されますと、さらに詳細な情報をご覧ください。

日本モンサント株式会社の取り組みや事業についての詳細は、こちらをご覧ください。

【Website】 <http://www.monsanto.co.jp/>
【Facebook】 <https://www.facebook.com/MonsantoJapan>
【Twitter】 <https://twitter.com/monsantojapan>
【Blog】 <http://www.monsantojournal.jp/>

この件に関するお問い合わせ先

日本モンサント株式会社

広報部 松本

TEL: 03-6264-4824 FAX: 03-3566-5411 E-mail: bio.info@monsanto.com

CSL

新製品開発に積極投資

R&D費の60%充当

豪CSLのポール・ペローCEOマネジングディレクターは、イノベーションが好業績の原動力になるとして、2020〜23年を念頭に新製品の研究開発(R&D)投資比率を60%に引き上げていく方針を示した。心筋梗塞後の心血管イベント抑制を狙い米食品医薬品局(FDA)と第3相臨床試験(P3)に向けて協議予定であるアポリボタンはくA1注入療法はCSL112は20年に申請、さらに炎症、糖尿病領域において3つのモノクローナル抗体のファーストインヒューマン(FIH)を豪州で開始する。



ペローCEO

ペローCEOはCSLの取締役に就任した。来日21日に記者会見した。5つのキーワードである

成長、効率性、インフルエンス、エンパワメント、イノベーション、人材と企業文化に注ぎ込んでいる。新製品が最大の戦略目標を示した。

同社は血しょうたんぱく質、ワクチンなどバイオ企業としてのイノベーションが好業績の原動力であると、R&D投資を拡大してきている。R&D投資比率は5年前は7〜8%だったが、現在は10〜11%に拡大している。新製品が最大の戦略目標を示した。

またペローCEOは、R&D最適化のために年2回見直ししており、大手のR&D投資比率は15〜20%だが失敗が多い。当社は米国において18カ月で3製品を上市に達している」と投資戦略の実効性を強調した。

武田薬品工業は21日、パーキンソン病治療薬「サキソニン」(一般名)の国内第3相臨床試験(P3)の結果を発表した。パーキンソン病の症状が

パーキンソン病薬国内P3

主要評価項目を達成

武田薬品

として示したのは、免疫グロブリン製剤の慢性炎症性脱髄性多発神経炎(CIDP)適応、多量患者ニーズに応えられ

る。FDAとの協議では特別アクトコル査定(SPA)での第3相臨床試験(P3)を求めている方針で、21〜22年の承認を目指すとした。

住友化学

米中西部に試験ほ場

大型農薬候補の開発加速

住友化学は、米中西部で農薬開発試験用ほ場「中西部農薬研究センター」の運営を開始した。100%出資子会社のベラントUSAがイリノイ州シヤンペイ近郊で建設していたもので、外部機関を利用してきた各種試験を自社試験に切り替えていく。中西部はトウモロコシや大豆、コムギなど大型作物の栽培の中心地。これを機に、

欧米の大手農薬企業との協業を含め製品開発を加速させる。ベラントUSAはこれまで、西海岸のカリフォルニア州にある「基幹技術研究開発センター」と、南部のミシシッピ州に設けたほ場「中部農薬研究センター」で農薬の開発を進めてきた。今回、中西部に自前の試験ほ場を設けたことで、米国の研究開発の試験をすべて自社で行える体制を整えた。

新たな試験用ほ場は、気候で行うほど有益となく、南部では大豆も栽培されているものの、比較的暖かな気候を生かしたラタやコムギ、ヒナツなどが主流。このため中西部に自前の試験ほ場を設けたことで、米国の研究開発の試験をすべて自社で行える体制を整えた。

1000億円近い売り上げが期待されている大型農薬の候補化合物群「B2020」の開発のほか、海外の大手農薬企業との共同開発にも活用する。研究の進捗に応じて、最大50畓まで面積を拡大していく。また農薬従事者に対するトレーニング施設や農薬のデモ試験設備など、より農業現場に近い設備も備えており、農薬の普及にも貢献する。

住友化学は日本、米国、フランス、ブラジルに農薬の開発拠点を持つ。今回開設した試験ほ場に加入して、日本や米国で既存研究開発施設の拡充を進めており、グローバルな研究開発体制を引き続き強化していく。

花王と富士フイルムは21日、高精細で自在な発色を可能にする新しい染料「染料」(レイノボ・染料)を開発したと発表した。花王は来年に欧州、米州でサロ向けブランド「GOLDWELL」から「アスカ」ブランド製品を発売、日本を含めたアジア市場にはサロ向け、一般商

品向けを含めて検討し、3〜5年後をめどに投入する計画。花王は「アスカ」の可能性を大きく広げる画期的な製品とみて、現在、約500



イリノイ州に立地。共同開発にも活用する。研究の進捗に応じて、最大50畓まで面積を拡大していく。また農薬従事者に対するトレーニング施設や農薬のデモ試験設備など、より農業現場に近い設備も備えており、農薬の普及にも貢献する。

花王と富士フイルムは21日、高精細で自在な発色を可能にする新しい染料「染料」(レイノボ・染料)を開発したと発表した。花王は来年に欧州、米州でサロ向けブランド「GOLDWELL」から「アスカ」ブランド製品を発売、日本を含めたアジア市場にはサロ向け、一般商

品向けを含めて検討し、3〜5年後をめどに投入する計画。花王は「アスカ」の可能性を大きく広げる画期的な製品とみて、現在、約500



イリノイ州に立地。共同開発にも活用する。研究の進捗に応じて、最大50畓まで面積を拡大していく。また農薬従事者に対するトレーニング施設や農薬のデモ試験設備など、より農業現場に近い設備も備えており、農薬の普及にも貢献する。

花王と富士フイルムは21日、高精細で自在な発色を可能にする新しい染料「染料」(レイノボ・染料)を開発したと発表した。花王は来年に欧州、米州でサロ向けブランド「GOLDWELL」から「アスカ」ブランド製品を発売、日本を含めたアジア市場にはサロ向け、一般商

品向けを含めて検討し、3〜5年後をめどに投入する計画。花王は「アスカ」の可能性を大きく広げる画期的な製品とみて、現在、約500

日本モンサントは都内

で20日、科学を分かちやすく伝えることを目的に、学生対象の「FOODS NEXT 学生動画コンテスト」を開催した。第1回目の今回は理系の3チームが参加し、モンサントの技術基盤の

日本モンサント

一つ「遺伝子組み換えGM技術・作物」をテーマに、参加学生によるプレゼンテーション方式の作品紹介と工夫を凝らした分間の動画が披露された。審査の結果、千葉大学の「サウザンド・リープス」が大賞を獲得した。

学生動画コンテスト開催

GM技術・作物平易に紹介

同コンテストはメッセージ、分かりやすさ、創造性、信頼性の4つを軸に、ラップミュージックに乗せてGM技術の有り様を確証や承認アロケすることを目指す。博士のり入れた作品を募集し、応募作品の中から、筑波大学バイオエカフエ「千葉大学の「サウザンド・リープス」(筑波大学「育種」)の作品が選ばれた。各チームも最高評価獲得に向けチャレンジした。



左から堀江氏、大賞を受賞した千葉大サウザンド・リープスの3人、堀氏

説明を聞いた親子がGM作物は不安なものではないことを理解するということ。千葉大チームの片山直樹さん(園芸学部)は「難しい科学分野の表現をできるだけ入れず、誰にでも分かりやすく馴染みやすい内容にした」と作品制作で目指した点を語った。

主催者を代表して日本モンサントの中井秀一社長は「科学と社会をつなぐサイエンス・コミュニケーションは、製品開発技術と同等くらい大切と考えている。サイエンス・コミュニケーションを支え、将来の科学分野を担う人材育成を会社を挙げて支援したい」と思っている。コンテストは今回、3回とせり今後とも続けたい」とあいさつした。

大賞は千葉大「サウザンド・リープス」

作品の審査会では、ポリエモン「堀江貴文氏、国立国際医療研究センターの堀成美氏、くらしとバイオプラザの佐々義子常務理事、笹川由紀子常務理事、井ノ口情報普及会の今井康史事務局長、日本モンサントの中井秀一社長の6人が審査員をつとめ、投票形式で賞を決めた。